



第42号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 弘前報 印刷所 (有)小野印刷所

二〇一〇(平成22)年度卒業式式辞

学長 吉岡 利忠



三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震により、犠牲となられた皆さまに、深く哀悼の意を表すると共に、被災された方、そのご家族、関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。青森県はもとより岩手県、宮城県、福島県などの太平洋側から弘前学院大学へ来て

いる多くの学生がおります。今回の地震で、被災された学生さんもおられますし、その家族の皆さまには、弘前学院大学として心からお見舞い申し上げます。さて、本日、弘前学院大学文学部三七回生、社会福祉学部九回生、看護学部三回生ならびに大学院社会福祉学研究所修士課程七回生、大学院文学部修士課程五回生の学位記授与式を挙げるにあたり、弘前学院理事長兼学長阿保邦弘先生はじめ卒業生、修了生のご家族の皆様、校友会、父母と教職員各位のご臨席を得て、ここに式辞を述べさせていただきます。誠に光栄であります。

本日、ここに総勢二〇四名の皆さまが弘前学院大学から卒業・修了して行きます。特に、看護学部看護学科は三回目の卒業生となります。これまで、卒業生ならびに修了生の皆さまに対し在学中に温かく見守り励まして支援下さいましたご家族の方々にも心よりお祝い申し上げます。皆さまがそれぞれの科目を修学する過程において、私たち教員、職員が愛情を持ちながらも、しかし、時には厳しく皆さまに対応させて頂いた

たと思っております。昨今は、社会情勢、経済情勢ともに大変厳しいものがあります。特に就職に関しては私どもの大学のみならず、多くの大学で頭を悩ましておられるところであり、大学で開催される三学部を対象とした就職セミナーも恒例の行事になりました。このセミナーには首都圏および北東北三県から多くの会社、企業、医療施設などが参加しております。その甲斐もあり現在の就職率は全体で86.8%と上昇しております。今後さらに内定率が増え、最終的には100%になるものと期待しております。特に看護学部卒業生はほぼ全員の就職が決まっております。

さて、皆さまは、キリスト教主義教育を貫くわが弘前学院大学および大学院研究科を卒業、修了しました。皆さんは、入学時にリトリートという行事に参加し、建学の精神と聖書の心を学び、木曜日の通常礼拝のみならず創立記念礼拝、秋の特別礼拝

クリスマス礼拝、クリスマス音楽の夕べでは、宗教主任、牧師さん、教員そして諸先輩の貴重な話や心が和む音楽や歌唱を聴くことができました。静かな環境の中で、貴重な経験をしました。これらの経験は、これから社会に出る皆さんにとって自分が置かれている状況や今後の進むべき方向を見定める時の態度を知らず知らずのうちに養って来ています。とても短い時間の礼拝であっても、極めて有意義な体験であったと思っております。

さて、弘前学院は創立一二五周年目に入ります。歴史と伝統のある大学に在学したことに、堂々たるプライドを持つて欲しいと思います。弘前学院創設以来の歴史や伝統は、見え隠れしながら皆さんの誇りや自信を形成してくれています。崇高な誇りと自信を抱き

社会に飛び立つて下さい。そして、この伝統を持つ弘前学院大学に入学し卒業・修了したこと

を皆さんが卒業した高校の先生方、後輩、兄弟、友人たちあるいは職場の先輩たちに大いに誇りにして下さい。

弘前学院聖愛中学校・聖愛高等学校そして大学は、中・高・大そして大学院までの一貫教育を推し進めています。この一貫教育はその必要性を充分意識した結果です。理事長ならびに全教職員の熱い思いを背景に、地域から望まれた結果だと信じております。聖愛中学校は大学の看護学部と同様に、この三月に第三回生を送り出しました。キリスト教主義を背景とした中・高・大そして大学院を通しての一貫教育は東北地方であって誇れるものであります。さらに、在校生、数万人を数える卒業生、同窓会の強い絆が形成され、地方の教育機関として輝いております。

大学を卒業・修了した皆さんはさまざまな環境に飛び込むことになり、色々な人々と巡り会います。年齢の異なる人たち、学歴が異なる人たち、地位が異なる人たち、大学生時代の仲間というほば横の繋がりが主であったものが、歴然とした上下関係が存在する中に入ります。皆さんにとってはなかなか強烈な試練が待ち構えています。寝不足になったり、頭痛を訴えたり、たまにはお腹も痛くなるでしょう。どのような環境でも前向きに進むということ、この緊張を持つ姿勢が厳しい環境にも馴染むのです。

私の好きなフレーズを紹介しましょう。それは、See and do, Do not think too much. です。最初のフレーズは、しっかりと観察すること、状況を判断することになるかと思えます。見て、見つけて、見極めることを基礎として、これから飛び込んで行く社会においてキチンと行動・仕事をすることです。次のフレーズは、あまり考えすぎないよう、ということ。もちろん、考えることは必要です。どの位まで考えるのか、あるいは考え過ぎはどの程度からか、という関(しきい)はその状況その場において異なると思えます。考え過ぎの場合は時間だけが経過して行き、次の行動に移せなくなることを良く経験します。私は、文系・理系にかかわらず主として研究分野に進む卒業生・修了生には、このフレーズを、次のように解釈して紹介しております。すなわち、「純粋な観察は、その現象を理解する鍵を与える」です。しっかりとした観察によって、さまざまな現象のメカニズムが分かってくるのだよ、ということ。こんな、言葉もありえます。Try, First, Think next. 意味合いとしてはほぼ同様でありましょう。先ずやってみなさい。それから考えても遅くない。考えることが後の方が、その場面・場面を振り返って考えることになり、より適切な評価を得ることが出来ます。さらに、Plan, Do, Check, Act の頭文字をならべたもので、PDCAという社会人として最も大切な銘、すなわちモットーでもあります。すなわち、Plan 計画し、Do 実行・実施に移し、Check その結果を点検評価し、そしてそれを基にPlan 改善していくというものです。このような現場においても、このPDCAの方式でポジティブスパイラル的に前進して行こうとする姿勢です。

以上、いくつかの言葉を述べましたが、実社会に飛び込む皆さんには、是非とも、このような姿勢で臨んで欲しいと思います。どうぞ、頭の何処かに刻んでおいてください。卒業・修了して行く皆さんには、期待と希望に溢れる素晴らしい毎日が待っております。大学で習得した知識や態度を、思う存分に発揮して下さい。そして、弘前学院大学の後輩たちに、夢と希望を与えて下さい。

さて、本日、目出度く大学院を修了しました文学研究科の二名および社会福祉学研究所六名の皆さまに、日頃のお仕事や教育活動などで多忙の中、大学院の授業のみならず修士論文作成に多くの時間を費やし、論文の査査、副査の先生方の厳しい評価をクリアし、見事、修士号を受けることができました。中でも、宮

城から通い最高齢の女医さんとの息子さん、お二人とも残念ながら今回の大震災で欠席しておりますが、五十歳台、六十歳台で教員であった方、美容や理容関係の方、福祉関係のお仕事に携わっている方々の修士号の授与には敬服するばかりです。心から、祝福申し上げます。ほとんどの大学の卒業生は、二十歳前半の皆さんです。是非、皆さんも、それ以上の知識や技能を学ぶ必要性に迫られた時には、本日、修士号を頂いた先輩諸氏に見習い、大学院への門を叩いて下さい。さらに、人間性の溢れる生涯を送れると思います。繰り返しますが、弘前学院大学を卒業・修了したことに、自信と誇りを持ちながら、胸を張って皆さんの志を達成するために歩み続けてください。そして、私は、将来、諸君が素晴らしい伴侶を得て、行く行くは諸君のお子様たちが弘前学院聖愛中学校・高等学校として母校となる弘前学院大学を目指していただき、弘前学院の歴史を共に作っていただきたいものです。そのような、諸君に愛される大学になるように私ども教職員は、一丸となって教育環境、研究環境、運営環境を改善すべく前進したいと思っております。以上、皆さんの前途を祝し、私の式辞といたします。皆さまにそして全ての大学関係者に神の思召しを。 God Bless You.



2011(平成23)年3月19日 学位記授与式

本多庸一とキリスト教 (16)

学校法人弘前学院 理事長 阿保 邦弘



弘前より仙台へ (弘前学院の創立)

明治三十二年九月三十日、本多が東京府知事に提出した(基督教)宣教届けとその付属文書である履歴書が

ある。明治十九年の欄に「明治十九年夏感ずる所あり県会議員を辞して仙台に移転し同地美以教会の伝道を担当せり」とある。

ところで明治十九年といえは、本学院創立の年である。すなわち、明治十五年(一八八二)米国のカロライン・ライト女史の篤志による巨額の費用を持って「来徳(ライト)記念女学校」間もなく遺愛女学校と改名「が開校。この学校には弘前教会や藤崎教会その他の教会員の子が相次いで入学していた。

弘前には、すでに基督教によって

立つ北日本唯一最高の専門課程まで開設している東義塾の存在がある。しかし、弘前教会関係者の間には、地元にも遺愛女学校ほど整備された

女学校の開設はすぐには望めないにしても、なんとか女子のための基督教主義の教育施設を持ちたいとの願いは強まるばかりであった。このよう

な要望を担って本多と遺愛女学校当局者の話し合いが始まった。明治十八年(一八八五)の宣教師のレポートにも、「弘前からこの遺愛女学校の分校の開設を望み申し込みがある」との記事が見える。本多にしてみれば、さしあたり分校のかたちを取ること

でも、多少の時日がかければ独立の女学校実現の成算はあると見ていたと思われ、このようにして本多と

遺愛女学校当局者との間に話し合いが進められ、遺愛女学校に交付される経営資金の一部を割愛してもらい、とりあえずその分校を弘前に開設する運びとなった。分校を弘前に開設するにしても独立校舎を建てるまでにある時日を必要とする。そこで独立校舎を建てるまでは、日曜日以外は空いている教会堂を利用することになった。

明治十八年(一八八五)五月函館駐在の長老司グリーン夫妻と遺愛女学校長ミス・ヒュエットがそろって来弘し、六月中旬まで一か月弘前に滞在し、弘前教会の伝道に助けたこと、弘前教会関係の資料に見えるが、これこそ遺愛女学校の分校を弘前に開設するための打ち合わせや教会の

現場視察などの滞在だったと思われる。弘前教会の会堂内に小学課程の全日学校を開設したのは明治十九年(一八八六)六月二三日とされる。本

多は、この開校に当たって彼の門弟でイングリッシュを学んだ「弘前ペド」の一人山鹿元次郎を校務担当者として、この会堂内に開校した小学校は、とりあえず遺愛女学校にならって来徳女学校の表札を会堂の入り口に掲げたのである。弘前学院の源流に関する話が長くなってしまった。

本題に戻ろう。「明治十九年夏感ずる所あり」とは何か。 明治十九年七月十三日、本多はその貞淑な妻みよを失った。本多の受けた打撃は大きかった。妻の急逝直後の九月、本多は東京で開かれた日

本多メソジスト・エピソードの第三年分において仙台メソジスト教会牧師に任命され仙台へ赴任することになった。この赴任の最大の直接的動機は妻の急逝であると考えられるが自然であろう。この年本多は満

三十七歳、人生行路の見通しを決定すべき時期に立っていた。彼自身、その行く手を思い巡らしていたに違いない。これまでの経歴から、彼はすでに弘前におけるあらゆる面での指導者となっていた。しかしこれは必ずしも意のごとくならない経験を彼

は積んだ。鉄道敷設運動は弘前経由とするために上京奔走したにもかかわらず失敗に終わった。彼の青森県議会議長在任中全国に配置された大

学校区になっていったにもかかわらず、最後の決定で仙台に持って行かれてしまった。妻を失いそのとき「ここにおいて私は大いに悟る所があつた。政事屋を止めんと決心して」いた時に仙台伝道を囑託されたのであつた。

「大いに悟るところがあつた」というのが、悟ったことの少なくとも具体的な一つは、地方政治の限界ということではなかったか。政治の力のなさを知らず、常に大局からものを

見る指導者の能力と要素とを身につけていた本多が、かれの人生のこの時点で、さいはての弘前から目を外に向けて始めていたとしても不思議ではない。そのときに妻を失ったのであつた。

仙台には明治十八年以来メソジスト

の派の宣教師スワルツが伝道し、十九年五月に三十二人の信者を以て仙台メソジスト教会を組織したばかりであった。当時仙台には、本多のバラ塾時代の盟友押川方義が東北学院にあって隆々たる勢いで伝道に従っていた。本多自身の語るところによれば「たぶんメソジスト教会の目的は彼と対抗するくらいのこととさせるつもりでありましたろうと思われませんが、わたしはもとより押川氏とは兄弟同然の間柄ですから、始終共同一致して運動をともにした」のであつた。こうして本多は仙台教会にあること約一年、明治二十年九月、東京英和学校に招かれて上京することになるのである。(以下次号)

談話室

失うもののない強み

社会福祉学部 教授 大野 拓哉



今、勉強会にハマっている。それは、学外の現役ソーシャルワーカー諸氏と本学学生・教職員が、ここ二年余り、毎週、続けてきた会である。社会福祉の古典や名著を読むのが目的で、現在は、生江孝之の『日本基督教社会事業史』(昭和六年)を読み進めている。これまで読んできた文献は、私には専門外のものばかりだが、それ故、却って、気楽に続けられたかもしれない。失うものがない強みによるとは言えよう。

実は、こうした強みは前記の書物で描かれた人物たちにこそ見られる。例えば、投獄され死の淵から帰還した後に監獄改良や釈放者保護の事業に一生を捧げた人物や、医学の道を断念して岡山で孤児院を開設した人物の足跡にそれは見て取れる。いずれも先例に乏しく、さながら、一人荒野を行く趣きすらある。殊に後者の例は一人の巡礼の子の救済に始まり、濃尾大震災や東北の大飢饉などを経て収容児数は増加し、一時は千二百名を数えたともいう。一回の食事に来はどれだけ炊かねばならなかったのか、この子らが一遍に泣こうものならんと案ずる反面、千を超す笑顔は何物にも代え難

かつたろうなどと想像は尽きないが、いずれにしても、前に進むしかなかったであろうところに清々しい感動を覚え、いやがうえにも励まされずにはいられない。行くしかなければ行けばよい、無いならば作ればよい。そんなシンプルな生き方が何と刺激的で羨ましいことか。

私たちは、今後、まず間違いない、監獄改良にも孤児院開設にも携わらないだろう。しかし、問題は、何をしたらか、するかではなく、どのように人生と向き合うか・向き合っていくか。失うものがなければ失うことを怖れずに前に進む。それは潔い限りであるのに加えて、もしそのようにシンプルに生きられたならば、最期には、面白い人生だったと振り返ることも許されるかもしれない。

学内就職セミナー開催

文学部・社会福祉学部

就職課長 小嶋 定雄

一月十二日(水)、本学体育館において、学内就職セミナーが開催されました。今年度で六回目となります。

この学内就職セミナーは、多くの企業や職種を知り、就職活動への意識を高めることを狙いとしています。昨年度まで主に次年度卒業予定の文学部・社会福祉学部の三年生を対象にしていました。

今回のセミナーの特徴は、弘前ハローワークに初めて参加を依頼したこと、一・二年生が最新の進路全般の情報を得るためのブースを設けたことです。県内外の企業や施設等から、金融・サービス・自動車販売・教



来春卒業予定の大学生の就職内定率が、調査を始めた九六年以降最低となる「異常事態」となっています。本学の四年生も例外ではあ

育産業・情報通信・福祉施設等三十四社のご参加を頂きました。しかし、残念なことに昨年より四社少ない参加でした。

参加が出来なかった企業に理由を尋ねたところ、景気動向不透明により来年度の採用計画を立てることが出来ないという回答が目立ちました。

今年初めてハローワークにセミナー参加を依頼したのは、四年生の就職未内定者の就職対策としてでした。予め、参加する学生個々の希望職種や地域をハローワークの担当者と就職課は打ち合わせをしました。ハローワークの担当者

は、四年生の未内定者一人ひとり具体的に求人票を示し、求職相談を丁寧にして下さいました。この日の求職相談をした学生の中から、見事内定を勝ち得た学生が出ています。

学生の多くは「今まで考えていなかった業界や職種の説明を聞き参考になりました」、「他の企業との比較や、その業界について深く知ることが出来ました」、「今まで考えていなかった他の企業について興味をわきました」とこれからの就職活動に向けて積極的な話をしていました。

人事担当者からは「おとなしい」、「貴学だけではありませんが、やはり安定志向が強いかなと思います」という辛口の意見もありました。しかし、多くの人事担当者から「まじめで、目的意識がはっきり



きりしている学生さんが多かったように感じます」、「質問をする学生が多く、就活に対して積極的な印象を受けました」と

緊張した卒業研究発表会

看護学部 四年 高橋 里佳



二〇一〇年十二月十八日(土)、二〇一〇年度看護学部卒業研究発表会が行われた。看護学部棟において、二つの会場に分かれ、58名が各自の卒業研究内容を発表した。

4年生は、病院実習、就職試験、国試勉強など、時間が制約されている中、それぞれが研究方法を学び、自分の考えを述べる難しさなどを学んだと思う。看護師は常に勉強していかなければならない職種である。この先、専門看護

師になれば研究を行う機会があるだろう。臨床現場において、日々進歩する医療や技術に関する知識を身に付けておくことは重要であり、卒業研究を通して最新の情報を収集する方法や研究の意義を学ぶことができた。私の所属した研究室には7名のメンバーがおり、定期的にお互いの状況を報告し合い、切磋琢磨しながら慣れない研究に励んだ。お互い意見を出し合

い、他の人の意見に耳を傾けることで、様々な方向から物事を見ることができ、また、担当教員やメンバーたちとの絆が深まり、充実した研究活動を行うこともできた。時には研究に行き詰まり、自分が

Languages + Technology = the World

英語・英米文学科 by Edo Forsythe



I have been interested in using technology to learn and master foreign languages ever since I saw a student of mine create vocabulary lists with audio files to help him study on his Palm Pilot. Not only did he create these for his own use, he shared his lists with other classmates and enlisted others to create their own lists for their studies. All of the students who tried to use this new tool to help them study their foreign language found it helpful and said that technology helped them learn better. This demonstrated to me that technology really gives language students much more power over their own studies. After this experience, I arranged for my Russian students to interact with Russian students of English via Internet chat; this cemented my belief that technology is an amazing tool for students who want to master a foreign language.

I have studied foreign languages for most of my life: German in high school, Russian as a translator for the U.S. Navy, and Japanese while I lived in Japan during my Naval career. Languages are my passion and my pleasure and I love to help others learn a new language. Throughout my life as a language student, I have learned that the only way to really master a foreign language is to practice it. "Practice makes perfect," is an old English axiom and it is especially true when applied to learning a foreign language. Two decades ago, people could only practice a foreign language if they had a native speaker to interact with or by listening to the language and repeating it from the radio, CDs or cassettes. Today, technology allows language learners to contact the rest of the world and to practice a foreign language with a native or non-native speaker without great expense. I often use websites such as The Mixxer to practice writing Russian and to keep up with my skills. The Internet also allows me to access Russian websites, TV shows, radio stations or newspapers for free so that I can continue to be fluent in Russian. My passion for technology has also influenced my teaching methodology and now my students are learning how it can help them master English.

In my English classes, I ask my students to use their cell phones to search for information about American cultural items or to find information which supports the topic of our lessons. I hope to share my love for using technology in language learning with my students, my fellow faculty members, and with as many Japanese students of foreign languages as possible. Technological developments will continue to help language learners practice and become fluent in their second language for many years to come. When I learned German, I only had cassette tapes and my German teacher to practice with. Today, I can speak face-to-face with people who live in Russia, America or anywhere else using Skype video chat or in the Second Life virtual world. Who knows what technology will enable us to do in the next five years...

究紹介⑬

「弘前市学生委員会」に参加してみよう

社会福祉学科 三年 駒込 香織



私は現在、「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」の学生委員の一人として弘前中心市街地の活性化に向け活動をしてい

ます。この委員会は昨年十一月に行われた弘前市長と学生による意見交換会をきっかけに始まったもので、弘前学院大学、弘前大学、東北女子大学、東北女子短期大学、弘前医療福祉大学の学生で構成されました。現在、本学からも四名がこの活動に携わっており、学生一人ひとりが思い思いの意見を交換し合いながら参加しています。私自身も弘前に来て三年が経ちま

すが、休日に商店街へ出かけた際の何気ない地元の人との会話が温かく感じられ、人とのつながりの大切さを実感しています。

今回、この活動に参加したきっかけは、弘前市長との意見交換会の場で、学生の力で街を活性化させたいという市長の熱意やそれに応えようとする他大学の学生の声に共感し、弘前市の街づくりに貢献したいと思ったからです。委員会の活動は月に二回行われ、年明けの一月には弘前市を自分たちの目で再認識すべく、夕暮れ路地裏散歩ツアーに参加し、土手町周辺や鍛冶町周辺を歩いて回り、これまでに行ったこ

ろのない商店や隠れた名所を知ることが出来、とても良い経験になりました。また逆に、シャッター通りが並び、歩く人の姿が少ないという点も気になりました。三月十一日の東日本大震災を受け、各地域での住民同士の協力し合う姿を見ると、このような弘前市の光景はとも不安に感じます。人と人とのつながりが改めて大切だと感じ、今、学生が地域に出て行くということがどれだけ、地域の力になるかは計りしれません。学生街の弘前だからこそ出来るものがきっとあるはずだと感じます。

今後の、大学合同の文化祭やオープンキャンパスの開催、各大学の部・サークル活動の交流や発表の場の確保など様々な企画立案を行い、実行していく予定です。活動に当たり、多くの学生の声や協力が必要になると感じますので、宜しくお願い致します。



夕暮れ路地裏散歩ツアー

畠山 篤著

『万葉の紫の発想』——恋衣の系譜——

苗さす紫野行き標野行き

野守は見えずや君が袖振る

(万葉集一・20) 額田王

人妻ゆえにわれ恋ひめやも

(万葉集一・21) 大海人皇子

右は万葉集の相聞の歌としてよく知られている。著者はこの「紫」の語を詠み込んだ歌がすべて恋情を伴っていることを、万葉集の全一七首の用例や表現を綿密に検討し明らかにする。さらに「紫」が

ほかに、共通語からの津軽弁訳も範囲に加えました。方言が見直されてきているという時代の趨勢もあり、また津軽の地域に存立する大学としての意義を考えてのことです。

残念ながらエッセイ部門には応募が無く、このため三部門の「優秀賞」の中から選ぶ最優秀賞は、選考できませんでした。そのかわり、二部門の優秀者には「審査員特別賞」を併せて贈り、その努力と研鑽を讃えることとしました。

去る二月七日、学長室において

まちですが、その上手く行かない過程も含めて、授業の時とは違う学生達との時間は、いいリフレッシュにもなりますし、とても楽しい一時です。

はつきり言ってしまうと、楽しいことより苦労すること、大変なことの方がかなり多いです。しかし、ちょっと少ないですがそれでも頑張ろうと思えるくらい楽しいことや嬉しいこともあるのでとてもやりがいのある仕事だと思います。

愛情を発想する理由として、妻訪いや歌垣などの恋の場で紫根染めの「恋衣」を纏う習俗がその根拠をなしていることを民俗学的手法を用いて多角的に論じている。上代文学の研究は国学にまで遡る長い歴史と膨大な蓄積をもつが、本書は民俗学的な視点から新たな知見を加えた創見にみちた基礎研究の書である。

四六版で一五〇頁程のコンパクトな本だが、内容は深く鋭い。参

表彰式が行われ、学長から表彰状と、記念品が贈られました。「優秀賞」を得たのは、次のお二人です。

・優秀賞レポート部門 須々田一宏(娯楽としての「恐怖」)

・優秀賞翻訳部門 竹越 華子(二十年后)

なお、作品は冊子「稔町リフレット 第7集」としてまとめ、刊行いたします。(文学部 表現技術コンテストWG 井上諭)

文学部「表現技術コンテスト」二〇一〇

「表現技術コンテスト」とは、旧名称「文章コンテスト」の装いを、二〇一〇年度から改め、よりいっそう広い範囲における表現力を競うコンテストとしたものです。具体的には、従来の日本語訳の

来からある「レポート部門」「エッセイ部門」に加えて「翻訳部門」を新設し、英文からの日本語訳の

苦勞はもうあり過ぎて、強いて挙げれば、「徹夜で準備して授業に臨む」、自分なりに精一杯学生に説明し学生ポカーン(分かってもらえなかった)という時はかなり落ち込みますね。こういうことはかなりよくあります。正直、辛いです。「何でこの仕事選んじやったんだろ」と自問自答したくなる瞬間もあります。そして学生からの容赦のない質問の連射にもかなり悩まされます。日本とエジプトは、文化という

か考え方もそうですが環境が全然違います。面白い加減な決め方だと思われられるかもしれませんが、ある意味このような馬鹿みたいなボジティブさがこの仕事を続けていく上で、大切なことの一つなん

が、休日には商店街へ出かけた際の何気ない地元の人との会話が温かく感じられ、人とのつながりの大切さを実感しています。

今回、この活動に参加したきっかけは、弘前市長との意見交換会の場で、学生の力で街を活性化させたいという市長の熱意やそれに応えようとする他大学の学生の声に共感し、弘前市の街づくりに貢献したいと思ったからです。委員会の活動は月に二回行われ、年明けの一月には弘前市を自分たちの目で再認識すべく、夕暮れ路地裏散歩ツアーに参加し、土手町周辺や鍛冶町周辺を歩いて回り、これまでに行ったこ

ろのない商店や隠れた名所を知ることが出来、とても良い経験になりました。また逆に、シャッター通りが並び、歩く人の姿が少ないという点も気になりました。三月十一日の東日本大震災を受け、各地域での住民同士の協力し合う姿を見ると、このような弘前市の光景はとも不安に感じます。人と人とのつながりが改めて大切だと感じ、今、学生が地域に出て行くということがどれだけ、地域の力になるかは計りしれません。学生街の弘前だからこそ出来るものがきっとあるはずだと感じます。

今後の、大学合同の文化祭やオープンキャンパスの開催、各大学の部・サークル活動の交流や発表の場の確保など様々な企画立案を行い、実行していく予定です。活動に当たり、多くの学生の声や協力が必要になると感じますので、宜しくお願い致します。

紫の匂へる妹を憎くあらば

右は万葉集の相聞の歌としてよく知られている。著者はこの「紫」の語を詠み込んだ歌がすべて恋情を伴っていることを、万葉集の全一七首の用例や表現を綿密に検討し明らかにする。さらに「紫」が

ほかに、共通語からの津軽弁訳も範囲に加えました。方言が見直されてきているという時代の趨勢もあり、また津軽の地域に存立する大学としての意義を考えてのことです。

残念ながらエッセイ部門には応募が無く、このため三部門の「優秀賞」の中から選ぶ最優秀賞は、選考できませんでした。そのかわり、二部門の優秀者には「審査員特別賞」を併せて贈り、その努力と研鑽を讃えることとしました。

去る二月七日、学長室において

まちですが、その上手く行かない過程も含めて、授業の時とは違う学生達との時間は、いいリフレッシュにもなりますし、とても楽しい一時です。

はつきり言ってしまうと、楽しいことより苦労すること、大変なことの方がかなり多いです。しかし、ちょっと少ないですがそれでも頑張ろうと思えるくらい楽しいことや嬉しいこともあるのでとてもやりがいのある仕事だと思います。

愛情を発想する理由として、妻訪いや歌垣などの恋の場で紫根染めの「恋衣」を纏う習俗がその根拠をなしていることを民俗学的手法を用いて多角的に論じている。上代文学の研究は国学にまで遡る長い歴史と膨大な蓄積をもつが、本書は民俗学的な視点から新たな知見を加えた創見にみちた基礎研究の書である。

四六版で一五〇頁程のコンパクトな本だが、内容は深く鋭い。参

表彰式が行われ、学長から表彰状と、記念品が贈られました。「優秀賞」を得たのは、次のお二人です。

・優秀賞レポート部門 須々田一宏(娯楽としての「恐怖」)

・優秀賞翻訳部門 竹越 華子(二十年后)

なお、作品は冊子「稔町リフレット 第7集」としてまとめ、刊行いたします。(文学部 表現技術コンテストWG 井上諭)

「誰でも日本語教師になれるか？」という問いに「もちろん」と私は答えます。大学卒、養成講座修了、日本語教育能力検定試験合格のどれかあれば、なれま

す。とにかく大学卒ならOKです。ネットで日本語教師求人サイトを見つけて応募して、中国や韓国などで働けます。でも、教えるのは難しいです。訓練と、知識が必要ですからプロには簡単になれません。さて、私は今年、JICAの青年海外協力隊日本語教師枠に合格しました。しかしJICAのような公的派遣の日本語教師枠は人気があり倍率もまあ高い。合格するためには、「持ち札」を増やすこと。例えば基本的な日本語教育の知識と技術に加え、簡単な着付け、茶道、料理、語学が出来るかどうかです。

なぜ日本語教師になろうと思ったの？

最初は中学から高校での国語の先生を目指していたのですが、ある時、たまたま日本語教師について書かれている本を読んで、「この仕事は面白そうだ」と思い、国

語の先生から日本語教師になるというように、目指す目標が変わったんです。簡単に言ってしまうと、「なぜ日本語教師になったのか？」という質問に対して私の答えは「面白そうだったから」。これに尽きます。何ていい加減な決め方だと思われられるかもしれませんが、ある意味このような馬鹿みたいなボジティブさがこの仕事を続けていく上で、大切なことの一つなん

が、休日には商店街へ出かけた際の何気ない地元の人との会話が温かく感じられ、人とのつながりの大切さを実感しています。

今回、この活動に参加したきっかけは、弘前市長との意見交換会の場で、学生の力で街を活性化させたいという市長の熱意やそれに応えようとする他大学の学生の声に共感し、弘前市の街づくりに貢献したいと思ったからです。委員会の活動は月に二回行われ、年明けの一月には弘前市を自分たちの目で再認識すべく、夕暮れ路地裏散歩ツアーに参加し、土手町周辺や鍛冶町周辺を歩いて回り、これまでに行ったこ

ろのない商店や隠れた名所を知ることが出来、とても良い経験になりました。また逆に、シャッター通りが並び、歩く人の姿が少ないという点も気になりました。三月十一日の東日本大震災を受け、各地域での住民同士の協力し合う姿を見ると、このような弘前市の光景はとも不安に感じます。人と人とのつながりが改めて大切だと感じ、今、学生が地域に出て行くということがどれだけ、地域の力になるかは計りしれません。学生街の弘前だからこそ出来るものがきっとあるはずだと感じます。



「日本語教員」を目指して

日本語・日本文学科 二〇一一年三月卒 長谷川里子

色んなサークルに入って、芸を身につけておくと日本語教師になる

とき役に立つと思います。しかし、日本語教育を学ぶにあたり、地方のハンディはあるかです。国際色が強く日本語教育が盛んに行われている地域では日本語教育関係のセミナーも多く、外国人に教えるチャンスもあります。私の場合見渡す限り田んぼ&田んぼのつ

日本語教師 菊池祥光のエジプト通信

日本語・日本文学科 二〇一〇年三月卒 菊池 祥光



なぜ日本語教師になろうと思ったの？

最初は中学から高校での国語の先生を目指していたのですが、ある時、たまたま日本語教師について書かれている本を読んで、「この仕事は面白そうだ」と思い、国

語の先生から日本語教師になるというように、目指す目標が変わったんです。簡単に言ってしまうと、「なぜ日本語教師になったのか？」という質問に対して私の答えは「面白そうだったから」。これに尽きます。何ていい加減な決め方だと思われられるかもしれませんが、ある意味このような馬鹿みたいなボジティブさがこの仕事を続けていく上で、大切なことの一つなん

が、休日には商店街へ出かけた際の何気ない地元の人との会話が温かく感じられ、人とのつながりの大切さを実感しています。

今回、この活動に参加したきっかけは、弘前市長との意見交換会の場で、学生の力で街を活性化させたいという市長の熱意やそれに応えようとする他大学の学生の声に共感し、弘前市の街づくりに貢献したいと思ったからです。委員会の活動は月に二回行われ、年明けの一月には弘前市を自分たちの目で再認識すべく、夕暮れ路地裏散歩ツアーに参加し、土手町周辺や鍛冶町周辺を歩いて回り、これまでに行ったこ

ろのない商店や隠れた名所を知ることが出来、とても良い経験になりました。また逆に、シャッター通りが並び、歩く人の姿が少ないという点も気になりました。三月十一日の東日本大震災を受け、各地域での住民同士の協力し合う姿を見ると、このような弘前市の光景はとも不安に感じます。人と人とのつながりが改めて大切だと感じ、今、学生が地域に出て行くということがどれだけ、地域の力になるかは計りしれません。学生街の弘前だからこそ出来るものがきっとあるはずだと感じます。

社会福祉士・精神保健福祉士養成校 成績優秀者表彰される

この度、二〇一〇(平成二十二年)年度の成績優秀者が決まり、三月十九日に表彰状の授与が学位授与式後に行われた。

この賞は、学業成績人物ともに優秀で、社会福祉士・精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対し贈られるものです。

受賞者は次の方々です。

■日本社会福祉士養成校協会 成績優秀表彰者 山中絵梨香

■日本精神保健福祉士養成校協会 成績優秀表彰者 木村穂寿美

この度、二〇一〇(平成二十二年)年度の成績優秀者が決まり、三月十九日に表彰状の授与が学位授与式後に行われた。

この賞は、学業成績人物ともに優秀で、社会福祉士・精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対し贈られるものです。

受賞者は次の方々です。

■日本社会福祉士養成校協会 成績優秀表彰者 山中絵梨香

■日本精神保健福祉士養成校協会 成績優秀表彰者 木村穂寿美



照文献のリストや引用「和歌・歌謡」の索引も詳密であり、研究書として使用するに足る。

学部長職の繁務の間に執筆を続けていた姿を見知る者としてはかかる達成を心から慶賀したい。

(文学部・野沢 勝夫)

アーツアンドクラフツ社刊
〈二〇一〇〉二千円。

弘前学院大学卒業生一同より
集まった義援金日本赤十字へ

¥105,576-

今回の東北関東大震災の状況を目の当たりにして、被災して困っている友人や地域の人たちに対して、なにか私達にできることはないかと思ひ義援金を募りました。被災した方々や友人のこれからの生活に少しでもお役に立てれば幸いです。一刻も早く被災地のみなさまに笑顔が戻ることを願っています。

卒業関係委員会
日本語・日本文学科卒 三上 絵里

